

惑へる情を反としむる歌一首

八〇〇番

父母を 見れば尊し 妻子見れば めぐし愛し
世の中は かくぞことわり もち鳥の かからは
しもよ 行くへ知らねば うけ沓を 脱き棄るこ
とく 踏み脱きて 行くちふ人は 石木より 生
り出し人か 汝が名告らさね 天へ行かば 汝が
まにまに 地ならば 大君います この照らす
日月の下は 天雲の 向伏す極み たにぐくの
さ渡る極み 聞こし食す 国のまほらぞ かにか
くに 欲しきまにまに 然にはあらしか

反歌

八〇一番

ひさかたの 天路は遠し なほなほに 家に帰り
て 業をしまさに